

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300225		
法人名	生活クラブ風の村		
事業所名	生活クラブ風の村グループホーム作草部		
所在地	千葉県千葉市稲毛区作草部1-15-17		
自己評価作成日	令和1年9月19日	評価結果市町村受理日	令和2年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和1年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を基本とし、利用者の支援に関しては、個別の健康状態や嗜好等、生活歴を把握し、個別に合ったケアを重視していきます。できない事が増えていく中でも、その利用者が持てる能力の維持、継続は重要と考え、家事行為等の機会を多く提供しています。日常生活の中で、ほぼ毎日のように地域に出て散歩や買い物等を利用者と一緒に行い、地域になじんだ生活をしています。入居者自身の願いや希望を叶えるような生活にする為に、利用者同士互いに助け合い協力しながら、本人が主体となるケアを行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念とともに、理念をベースに「温かい食事をする」「外出を楽しむ」など具体的な事項を盛り込んだ「10の基本ケア」を職員に周知しており、日常的な散歩や遠出イベントなど外出に力を入れている。職員は利用者一人ひとりの把握に努めており、家族あてに毎月、利用者の写真とコメントを入れて便りを出している。職員研修は、法人及び事業所の研修を月次で実施し、加えて年に1回は外部研修に参加できるようにしており、外部研修に参加した職員が伝達研修を実施している。ホームは小規模多機能型居宅介護事業所、デイサービスセンターなどが併設されており、防災訓練は各事業所と合同で行うなど、連携しながら利用者を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議や事業所内会議において理念の唱和を実施している。職員行動基準冊子に掲載されており、目に触れる機会が多くなっている。	理念を元に「10の基本ケア」という行動基準を策定し、温かい食事をする、外出を楽しむ、床に足をつけて正しい座位をとるなど基準に沿ったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域内の催し物(盆踊り・運動会)に職員・利用者共に参加している。近隣のスーパーや飲食店を良く利用し、顔なじみの関係が作れている。	自治会の夏祭りや運動会などに参加している。また、ホームの夏祭りやハロウィンには近隣の人が遊びに来ている。大学等の実習生の受け入れや近隣の障害者施設からは訓練の一環でトイレ掃除に来るなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の専門学校及び大学等からの実習生の受け入れを積極的に行っている。運営推進会議の際に認知症の勉強会を開き、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	3か月の1度の運営推進会議を行っている。日常の様子や事故報告等をお伝えし、多くのご意見や提案を頂き、日々の支援に活かしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長、第三者委員や利用者家族が参加している。ホームから報告をし、家族からの要望などに回答している。また、欠席した家族にはお便りと共に議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告を市町村に行った際に様々なアドバイスを頂いたりしている。地域包括支援センターの担当者と連絡や相談、協力体制を整えており、何かあれば相談協力ができるようにしている。	市の担当課とは相談や報告をするなど関係性ができている。また、運営推進会議などを通じて地域包括支援センターの職員と情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わない。施設内は自由に歩く事ができるようにしている。身体拘束廃止委員会を3か月に1度実施し、その内容を職員間で共有している。	身体拘束適正化検討委員会を3か月に1回開催するほか、虐待防止委員会を毎月開催している。特にスピーチロックに関しては徹底して指導しており、継続的にレベルアップを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待予防に関しての委員会の設置をしており、その内容を全職員に周知している。事業所会議内でも学ぶ機会を作っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修や事業所内会議内において学ぶ事ができる。成年後見制度を利用されている方もおり、その理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学、事前の内容の説明の機会を設けている。契約時、改定時など本人または家族等に説明し、疑問点などを解消できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡ファイルを作成し、家族からも職員や要望などを伝えられるようになっている。家族からの要望はユニット会議内で話し合い、家族に報告している。	年に1回、法人による満足度アンケートを実施しており、利用者家族からの意見を吸い上げている。また、家族の来訪時には話を聞くようにしている。意見などについては、ユニット会議等で共有して運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や事業所会議内において意見交換を行っている。個別でも運営に関する意見や相談事を聞いている。	ユニット会議は全員が出席できるようにシフトを調整して、意見を言いやすいように全員に発言を促しており、提案があれば実践している。また、職員の自己評価シートにも意見を書けるようにしており、さまざまな方法で意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己点検シートの記入を踏まえ、面談を実施し、待遇改善の検討や働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じて外部研修を受ける機会を作るようにしている。内部研修の参加を積極的に進め、事業所内でも毎月研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設・法人全体での行事や研修に参加する事で他事業所の職員と交流する事ができ、サービスの質を向上させる取り組みができています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の対話を優先にして本人の思いを聞き取っている。安心して穏やかな生活ができるよう本人の意向が反映されたアセスメントが実施できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談にて家族の思いや要望などを把握するよう努め、不安等を聞く事により家族とも信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議にて本人家族の思いを共有し、必要な支援に繋いでいく。状況や状態を見極め、まず必要な支援が何かという事を分析し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事の準備や後片付けなど日々の生活の中で本人が出来る事をお手伝いしてもらいながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された時や毎月の手紙の中で近況報告を行っている。体調変化等があった場合には、連絡、報告をし情報共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人や友人、親族など馴染みの人の来訪を受け入れ支援に努めている。インフルエンザや感染症の流行時は、ご本人、御家族了解のもと、制限する事もある。	友人、知人、家族などの訪問があり、電話や手紙のやり取りも頻繁である。ホームとしても、これまでの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が集まれるスペースもあり、その中で出来る事、出来ない事を見極め、役割を持ちながら、利用者同士助け合いながら生活している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、必要に応じて、家族の心情に配慮しながら何かあれば相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプランに目を通し、日々の対話の中で希望や意向が聞き出せるような会話に努めている。	利用者の思いや意向は、家族及び入居前のケアマネジャーから得た情報や、フェースシートから把握している。また、利用者と一緒にいる時や散歩時の会話で思いを聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や日常の様子、家族からの情報などをもとにこれまでの生活歴の把握に努め、日々のケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活場面から、ご本人が持っている力や苦手な事などを把握するようにしている。健康チェック表を作成し、ご本人の体調管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の様子を見ている職員や、家族の意向、本人の思いなどをもとにサービス担当者会議を開催し、ケアプランに反映させている。	利用者や家族の思いや意向を基に、ケアマネジャーは自立支援を見据え介護計画を作成している。初回プランや介護認定の更新時は、家族にも担当者会議に参加してもらっている。また、月1回のモニタリングと日常のケア記録を参考に、定期的な見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や健康チェック表にて日々の様子や変化などを職員間で申し送り、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科医以外の通院に関しては、基本家族にお願いしているが、場合により職員が同行したり代行している。必要な物品、衣類等を家族に代わり購入する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや飲食店には度々出掛けたりし、ご本人のニーズに合わせて、買いたい物を買ひ、食べたい物を食べに行く支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医が各ユニット月2回、歯科衛生士の訪問が月4回ある。定期の訪問以外にも何か体調不良があれば、訪問がある。数名の方は、家族対応でかかりつけ医院に受診継続されている。	ホームは訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問ではバイタルや浣腸、医療的な助言などの他、24時間のオンコール体制ができています。専門医への通院は基本的に家族の協力を得ている。定期的な訪問診療と訪問看護で利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回以上は必ず看護師の来訪がある。入居者の体調変化が見られた時など報告や連絡を密に行い、随時的確な指示や対処をして下さる。24時間連絡が取れる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供を行っている。入院中は定期的に様子を確認している。退院前のカンファレンスやサマリーにより情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に「重要事項の追加事項」として重度化・看取りの指針の説明をし、その時点での意向の確認を行っている。実際に看取りを行ったケースはない。	重度化や看取りにかかわる指針を整備しており、入居時に家族に説明し同意を得ている。看取りの経験はないが、希望により看取り介護を行う体制があり、状態に変化があれば意思確認はその都度行うことにしている。昨年度は重度化や看取りに関する内部研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修に参加する機会を作る事やマニュアルを作成し、各職員に周知している。食事中の事故発生時の対応方法等の研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を半年に一度実施している。夜間想定避難訓練も半年に一度は実施している。	ホームは複合施設になっており、消火訓練や避難訓練は消防署立ち合いのもと施設合同で年2回行っている。また、夜間想定や不審者による防犯訓練なども行った。備蓄品は施設全体で水や乾パン、ガスコンロ、ヘルメット、ランタンなどの他、貯水槽がある。	ホームでは夜勤専従職員を雇用しているが、訓練への参加は見られない。万が一に備え訓練に参加することが望まれる。また、地域住民の協力体制については運営推進会議で話し合われているので、体制の整備を期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴や排泄時には、ご本人の尊厳に配慮した接遇を心掛けている。排泄情報や体重、疾病など個人情報に関わる事項についての伝達では声の大きさの配慮などに留意している。	利用者の尊厳を傷つけたり、プライバシーを損なうことがないように「どうしましたか」の声掛けを行っている。排泄に関しては声の大きさやトーンに配慮した声掛けで支援している。また、接遇研修を受けた職員が伝達研修をし、全職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室でテレビを見たい方、居室で読書など本人の意向に沿える時は自由に過ごして頂いている。利用者を選択して動いて頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースや希望に可能な範囲で対応している。散歩などで気分が落ち着く様子が見られる方の対応も職員が交代で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、入浴後の整容行為の支援の他に汚れには随時対応している。毎月1回の訪問カットを利用される方もいる。希望時には、ネイルにておしゃれを楽しまれている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のカットをお願いしたり、食事に関する準備、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどできる範囲で手伝って頂いている。	食事の献立や調理は施設全体の厨房で作っており、ホームに運ばれてくる。ペースト状の物でもできる限り形が分かるよう心掛けている。時には厨房から野菜を持ってきて、利用者にかつしてもらったり、利用者と職員でおやつを作り楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日チェック表に記録し、健康管理に努めている。食事量は本人の習慣や、医師の指示などで加減している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。週1回の歯科医師・歯科衛生士の訪問でケアやチェック、指導を受けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用する事で、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、誘導のタイミングなどを確認し、排泄支援を行っている。	トイレは各居室に設置されており、利用者は居室での排泄が基本になっている。ホームでは排泄のできる限りの自立を考えており、排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間でもオムツやポータブルトイレを使用する利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量以外に食物繊維の多い寒天やごぼう茶を1日1回取り入れ、腸活動を促進する味噌汁の提供を行っている。体操、散歩の運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に応じて、週2回以上の入浴を実施している。おおよその入浴提供時間は決まっているが、ゆっくり楽しめるように個別対応をしている。	入浴は一人ひとり湯を交換して支援している。入りたくないという利用者には無理強いせず、声掛けのタイミングや雰囲気作りを工夫している。仲の良い利用者同士で入ったり、入浴剤や季節の湯を提供するなど、楽しい入浴になるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調を把握し、休息が取れるようにしている。又、夜間まとまった睡眠が確保できるよう日中に活動する時間を多く取っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の確認と本人との確認を毎回行い、服薬ミスにつながらない様に努めている。個々の服薬リストを活用し、すぐに薬の目的や用法が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業の手伝いや気分転換の散歩やレクリエーションなどを取り入れている。御自分でできる事は自身で行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内周りや近隣のスーパーや飲食店に個別で行く事が多い。御家族が定期的に来られ、外出される利用者もいる。年に数回、遠出の外出を計画し実施しており、家族の協力も得られている。	天気の良い日は散歩に出かけており、車いす利用者も含め、均等に出かけられるよう心掛けている。時には買い物など個別の外出を支援している。ホームは外出の機会も多く、遠出の外出では家族の参加もあり、皆で楽しんでいる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭の管理をしている利用者は現在いなく、全利用者が預り金制度を利用している。買い物に行った際は、金銭を渡し自身で購入して頂く事を行ってらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や郵便物の郵送など代行を行っている。本人宛の郵便物に関しては、必要に応じて職員が代読する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により、加湿器、空気清浄器も活用している。直射日光は、カーテンなどで調整している。廊下や壁には写真を飾ったり、リビングに観葉植物を置いたりリラックスできる環境を作っている。	フロアは広くゆったりとしており、明るい。2卓のテーブルは利用者がどこに座っても、他の利用者の顔が見えるよう六角形のを置いている。フロアはシンプルであるが、ディスプレイで季節感を出すようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット毎にリビングの配置を変え、共同空間の中でもソファーに座り気の合う方々と過ごせる空間等を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の馴染みの物や思い出の写真などを飾って心地よい環境となるよう努めている。本人の動線や安全を考えてベッドや家具を配置するようにしている。	各居室にはテレビ、タンス、仏壇など、利用者の馴染みの物が置かれており、安心して過ごせる居室になっている。家具などは利用者の身体状況に応じ、動線や安全に配慮し、家族と相談の上、配置を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で家事等できる事を丁寧に説明し、使用しやすい位置に物を置くようにしている。居室には、一人ひとりの表札を掲示している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所